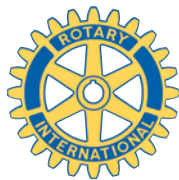


2006-2007  
国際ロータリー第2510地区

# ガバナー月信

No.7  
2007  
01



**GOVERNOR'S  
MONTHLY  
LETTER**  
2006-2007  
ROTARY INTERNATIONAL  
DISTRICT 2510



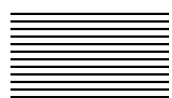
2006-2007年度 ガバナー 丸山 淳士 JYUNJI MARUYAMA

〒060-0042 札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル3F  
TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512 E-mail : rid2510@nifty.com

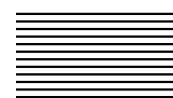
# ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510



2006 - 07年度 国際ロータリーのテーマ



## 率先しよう



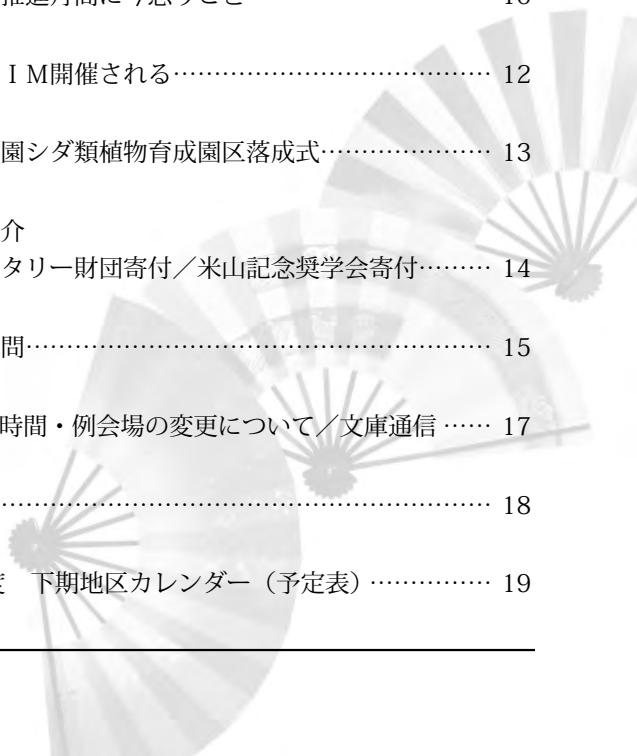
### CONTENTS

---

ガバナーメッセージ	1
ロータリー財団地域セミナー報告	3
第35回ロータリー・ゾーン研究会に参加して	6
ロータリーは家庭から	7
ロータリー理解推進月間に今思うこと	10
第3グループ IM開催される	12
台北中正記念公園シダ類植物育成園区落成式	13
新入会員のご紹介 ／ロータリー財団寄付／米山記念奨学会寄付	14
ガバナー公式訪問	15
例会曜日・例会時間・例会場の変更について／文庫通信	17
出席報告	18
2006-2007年度 下期地区カレンダー（予定表）	19

---

迎春





国際ロータリー第2510地区ガバナー

**丸山 淳士**  
(札幌真駒内 RC)

## ロータリーを理解し、率先して行動しよう

1月はロータリー理解推進月間です。

昨年度のサンディエゴでの国際協議会で、ビル・ボイド氏は、ロータリーが100年にわたって成果を上げて世界中から支持を受け続けているのはその理論が極めて単純明快だからです。と述べておりました。

私がロータリーに入会してから、周囲の声は「ロータリーは難しい」「理解するには長年かかる」「いくら勉強してもわからない」等々の声しか聞こえませんでした。

しかし、ビル・ボイド氏の言葉に目から鱗が落ちるように、一気に胸の中のもやもやが吹っ飛んでしまいました。

「良いことをしよう」です。

Service Above Self を直訳したのが「超我の奉仕」です。アーサー・シェルドンはこの言葉を「自己研鑽の奉仕」と解説しております。

奉仕をすること、行動することは人間として当たり前のことであり、研鑽し自己を高めることによって常に質の高い奉仕をすることが理想であります。

ロータリーの基本は常に自己研鑽し自分を良い方向へ変えていくことにあります。

そこには、素晴らしい質の高い会員が多数身の回りにいて、いつでもどこでも同等の立場で接する権利を持っています。これは、素晴らしい特権でもあります。

会員同士が切磋琢磨し自己を高めることによって、自分一人ではなしえない質の高い奉仕ができるということです。

おなじ「良いこと」でも、質の高い良いことを実践できるのがロータリアンです。

ロータリアンは、会員同士の研鑽によって少なくとも以前の自分よりは必ず「質」が高まっております。そこで、自分自身が「良いこと」と思ったことをすぐに実行すればよいだけなのです。奉仕を実践することによってさらに自分自身も高められます。

自己を研鑽し、ロータリーの綱領の実践に基づいた奉仕という実に単純明快なロータリーの活動なのです。



第35回ロータリー・ゾーン研究会が今年度は11月23日から岡山において開催されました。第2510地区からも、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、現ガバナーそして、パストガバナーが参加いたしました。

23日はロータリー財団地域セミナー、24日は早朝から地区研修リーダーセミナー、地区会員増強委員長合同セミナー、ガバナー会が催され、25日はこれも早朝より第1セッションが開催され、引き続き午後からは①ロータリーの家族など ②識字と教育 ③規定審議会 ④ポリオ ⑤クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)の5つに分かれ分科会が開催されました。翌26日は午前中のセッションと午後からセッション1つと閉会式で終了でした。

今年度の特徴は、昨年度から盛んに問題となっておりますクラブ・リーダーシップ・プランです。

分科会の中で、このセッションに参加者の殆どが出席してしまい、他のセッションも大変重要な問題でしたが、参加者が少なく寂しいセッションとなってしまいました。

クラブ・リーダーシップ・プランは一つのセッションとして取り上げた方がよかった感じがしました。

第2510地区でもCLPを実行に移したクラブがありますが、まだまだ多くの課題を残しての実施となっています。

クラブ会員数が20名以下のクラブでは、会員全員で議論を重ね、地域の事情に併せた委員会の構成も考えて実施し、毎年検討をして見直す必要があります。

会員数が50名を超えるクラブでは、CLPを実施するかどうかは慎重に検討をお願いします。

何よりも、これらのプランは目的達成のための手段の一つであり、目的は「より良きロータリーと、より良きロータリアン」であるということです。

このCLPは、RI理事会での決定事項ではありますが、まだ規定審議会の審議を受けておりません。

来年3月に開催される規定審議会ではっきりした方針が決定するものと思っております。

時代は移り変わっております。

ロータリーも時代と共に対応した行動を取らざるを得ないとは思いますが、より良きロータリーを目ざし、ロータリーを信じ、希望を持って将来を展望しようではありませんか。102年目を着実な足取りで率先しましょう。





ロータリー財団委員会 委員長

**遠藤 正之**

(札幌南 RC・PG)

## ロータリー財団地域セミナー報告

ロータリー・ゾーン研究会の付随会合として毎年その会期の前に行われている「ロータリー財団地域セミナー」は11月23日（木）ホテルグランヴィア岡山で午前10時の来賓代表重田政信 R I 理事の挨拶で始まり、以降昼食の1時間を挟んで午後5時の講評が終わるまで12項目に亘って報告を受けた。

各項目は各々15～30分であったが今年も極めてタイトなセミナーであった。

項目毎に要点のみを略記します。

### 1. ロータリー財団の展望（TRF管理委員長 ルイス・ビセンテ・ジアイ）

ロータリーも100周年を迎えて2年目になり、確実に変化している。

大きなビジョンを持ち世界の要望に応えられるような国際性、柔軟性を持つ豊かな人材を求めている。

官僚主義を排除し、思いやる心を醸成して欲しいと述べ財団はロータリアンが誇りに思えるものであるための組織であり、実績にも誇りを持ち、又人類の将来に対しても誇りを持つようなものでなければならぬと、そのため将来のビジョンとして10項目に及び方針を述べた。

### 2. 財団の財政（R I 事務総長 エド・フタ）

2007年1月に財団の年次報告が各クラブに送付されると前置きし、ロータリー財団の資産は2005-2006年度に3450万ドル増え総資産は7億920万ドルになったと報告した。

又今回来日し、新幹線に乗りそのエンジンの強さを身をもって感じ、それを財団の力に例え、強力で推進して Rotary のプログラムを行って欲しいと述べた。

### 3. ロータリー財団の重要性（財団管理委員 田中作次）

過去において財団はロータリーと共に世界の平和に貢献したが、未来の夢に向って焦点を合わせて欲しいと述べ、過去1917年にアーチ・クランフが社会奉仕を援助「何かよいことを」と考えたのが財団の始まりで以来、現在まで過去15回の財団としての節目を経て今日の地区との協調、草の根レベルでの奉仕活動、そしてロータリーの夢である世界親善平和へのプログラムへと発展したと経時的に財団の流れを熱い思いで説明した。

### 4. ポリオの現況（R I 理事 渡辺好政）

ポリオ撲滅の現況について述べ、2006年はナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニスタンで41例の発病をみるのみであった。これは昨年より新しいワクチン（mopv）を使用したのが影響したのかもしれない。

又ロータリー財団は過去20年間に6億5000万ドルを費やし、200ヶ口2000万人のボランティアの力で20億人の子供にポリオ・ワクチンを接種した。

今年はWHO、CDC、ユニセフと協力し世界中がポリオフリーになると思われる（2008年？）までに強力でポリオ撲滅をする予定である。

**5. ローターリー財団学友（R F A C 松岡通夫）**

世界で101,785人、日本で9,500人、ロータリー財団は2005年に「学友」という身分を明らかにし財団学友として国際親善、国際理解、平和理解を体験し寄与した青年を実践プログラムである地区大会、地区協議会、P E T S、その他の会合の卓話者として参加してもらい、財団プログラムの偉大さを実体験として報告してもらおう。  
そのためには名簿の作成を完成する事が先決であり、将来よきロータリアンとして迎えるようにしたい。

**6. 寄付の重要性（R R F C 上野 孝）**

国際ロータリーのロータリー財団は車の両輪に例えられているが、一つの組織の中で一体化しているものである。会社に例えるとプログラム、資金調達は営業部門であり、人頭分担金に関しては経理部門であり、又会費活動支援、役員任命に関しては人事総務部門であるかも知れないと述べ、一体化の必要性を述べた。  
過去から現在までポリオ撲滅、紛争の解決と平和の推進、又ボイドR I会長の提唱する水の問題、保健と飢餓追放、識字率の向上、ロータリー家族の問題等、国際ロータリーの戦略を実現するためのプログラムを実行するのに必要な資金として極めて重要である。  
又、昨年の年次寄付に触れ、“0”のクラブが97、一般寄付0クラブが84クラブあることに触れ、今年は年次寄付コーディネーター、大口寄付コーディネーターを任命し、  
(1) E V E R Y 100ドル以上  
(2) 大口寄付者の発掘  
(3) P H S（ポール・ハリス・ソサエティ）の増加  
を希望している。  
ロータリーの使命の正しさを証明し寄付の動機づけを理解してもらい、大口寄付による効果的な目標達成を期待したいと述べた。

**7. ローターリー・センター（ホスト・エリア・コーディネーター 川尻政輝）**

かつてロータリー大学を考えたが、これを断念したことにより、ポール・ハリス没後50周年と財団の教育的プログラム創設50周年を記念し、国際関係を研究するためのロータリーセンターを設立し異なる地域の評価の高い8大学が提携して行われる計画で、日本では三鷹のI C Uが選定された。  
世界平和フェローの資格条件としての6項目について触れ、現在日本では1～5期の13人が派遣された。  
又受入れは38人であり今後バランスの問題、受入学生の日本語能力の問題等、ホストエリア連絡協議会設立の問題等、今後の課題について触れた。

**8. 恒久基金委員会報告（恒久基金日本委員会副委員長 黒田正宏）**

恒久基金は世界理解と平和のための基金であることを理解してもらおう事を強調し、ロバート・バース元R I会長の「年次寄付は毎日庭に水を撒き花に水分を供給するようなもの、恒久基金はいつでも水を撒ける様に十分な水を用意している貯水池のようなもの」の言葉を引用し説明した。  
又、諸寄付の行方を説明し2025年までに10億ドルに達せようとする正夢を述べた。又、遺贈年金の加入について触れ、日本は200人で12名の方が亡くなり、7人の遺族の方が誓約通り寄付を実行して戴いたと報告した。  
ちなみに米国では5,133人で2億1400万が基金に寄付された。  
最後にプログラムを理解してもらい目標達成のための9箇条に及ぶ方針について発表された。



## 9. ローターリー・カードについて (カード・コーディネーター 川妻二郎)

“ハチドリの一とすく※”の詩を読んだあと「今私に出来ること」の説明をした後、11月現在3,745枚の発券と諸事情を報告し、早く5,000人に対し使用額の0.3%のロイヤリティが財団に入ることになるので皆様の協力が必要と促した。ちなみに米国では22,000枚の発券で、世界での現在までの総ロイヤリティは500万ドルに達している。

※南アメリカ先住民に伝わるお話

## 10. マッチング・グラント (RRFC 小島 哲)

マッチング・グラント (MG) はロータリー財団最大のプログラムである。日本では国際親善奨学金を重視しているが、世界全体で2005-06年度において国際親善奨学金は1,480万ドルに対し、MGは3,310万ドルを費やしている事を説明し、第2820地区のMG実績について成功例を述べた。

## 11. 奨学金について (RRFC 小島 哲)

日本ではロータリー財団発足以来、民間レベルとしては世界最大規模の奨学制度である。

若い人を留学させ相手国の文化に溶け込み勉強させる文化研修のための国際親善奨学金ですが、1学年度の奨学金が2008-09年度より26,000\$から23,000\$の渡し切りの値下げになりました。

又地区としてDDFを寄贈して留学生を迎える事も考えてよい時期とも思われる。

又、最近の傾向として折角合格してもオリエンテーション本来の意味を理解していなかったり、身勝手な理由から辞退者が多いのが問題である。

## 12. 地区補助金 (RI 日本事務局財団室長 片岡暎子)

地区ロータリー財団委員長 (DRFCC) の任期と任命について触れ、任期は3年とし、任期に当たる3年間のそれぞれのガバナーが協議して地区ロータリー財団委員長を任命する。

できれば、パストガバナーが望ましいとし、特別の理由 (病気、地区外へ引越、本人の辞意) 以外は辞退できない事も示した。

又「多地区合同国際親善奨学生オリエンテーションおよび派遣奨学生セミナーのためのロータリー財団助成金」があるが地区の隣り合っている所では可能である。

又、当地区の地区財団活動資金 (DDF) の残額 (11月15日現在) は、

2006-07年度	121,116.05ドル
2007-08年度	74,604.51ドル
2008-09年度	169,683.61ドル
計	365,404.17ドル

でありDDFの効果的な活用法を考える時でもあろう。

以上、12項目に及び報告等があり、その後ジアイトRF管理委員長、エド・フタRI事務総長を交えて質疑応答が行われ、予定時間を若干オーバーして終了となった。



2001-2002年度バスト・ガバナー

**岩城 秀晴**  
(札幌南 RC)

## 第35回ロータリー・ゾーン研究会に参加して

岡山県岡山市の岡山コンベンションセンターで行われた研究会に参加しました。第1日は午前8時30分から開会式が始まるので、前々日の早朝に札幌を出発し、その日はロータリー財団地域セミナーを午後5時まで、財団の重要性、展望、財政について担当理事から説明を受けて、財団への考え方を洗脳されました。ロータリーセンター、恒久基金への取り組み、ロータリーカードの拡大普及の説明を仔細に受けて、後にマッチング・グラントの解説を受け、その内容には複雑さがあって一度の説明では理解できないものであった。然し、これは当地区内において実践されている奉仕に対する特別補助金であり、同額補助金であったが、これが英訳されて現在に至っているが、マッチング・グラントは人道的プロジェクトのみが対象となっている。以上がロータリー財団地域セミナーにおける要約であった。

又ポール・ハリス・ソサエティは当地区では6名の会員数であり全国191名の数から考慮すると標準的な数とも見られた。ポール・ハリス・フェロー100%クラブでは80クラブの中に岩見沢東RCが入っておりまして大変に喜ばしい事に存じます。

さて、第2番目は本会議であります。第1日目は開会式が午前8時30分に始まり、10時25分に終り、10時40分より第1セッションが始まって12時に終了した。これらの内容については私の場合は省略しまして、私が現在関心のあるCLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）についての説明を聞いた。説明者は有田RCの成川守彦氏であり、その考え方と進め方について説明を受けた。又午後3時40分からの分科会で、実施されたCLPについてのディスカッションがあり、その中で何故CLPによる改善をしなければならないのか、単に委員会を縮小させるだけではCLPに対して理解しているとは言えないであろう、クラブの問題点の掘り起こし、クラブ環境が変化しているのかどうかを十分に検討して、それから実施に当たってはどのような計画を策定するのが良いのかどうか、そして長期的計画と年度活動計画を編成して組織は規模に合った機能別委員会と常任委員会と奉仕プロジェクトに全会員が所属するようにすることと、地区組織との整合性を図るようにすることが、クラブの活性化に繋がるような委員会とすることが必要であることが強調されていた。当地区においてもCLPについて研究しているクラブと、もう既に改善を実施したクラブがありますが、そのクラブの体質にあった組織の編成に取り組むべきではないかと思われます。

以上をもって研究会に参加した報告と致します。





2002-2003年度パストガバナー

**小林 博**  
(札幌北 RC)

## ロータリーは家庭から

11月25日(土)、26日(日)岡山において第35回ロータリー・ゾーン研究会が行われた。その第1分科会で私は「ロータリーの家族など」のパネリストとして「ロータリーは家庭から」と題して話をさせていただいた。その要旨を紹介する。

### ロータリー家族

「ロータリー家族」はロータリアンだけでなくそのご家族、亡くなられたロータリアンのご遺族、その他広くロータリーの関係者が一つの家族としてお互いに仲良く助け合い、結束を固めていこう、その結果ロータリーは組織として強固のものとなり、ひいてはこれが会員の退会防止、ならびに増強に役立つであろうというものであります。

この考えは素晴らしい考えで、ロータリー関係者への思いやりの心、家族愛の心を垣間見る思いでありますし、ここに異論をはさむ余地は一切ございません。大変結構な提案でございます。

### 「ロータリー家族」への新たな期待

ただ、ここで一つ私の考えを述べさせていただきますと、私はこの「ロータリー家族」という概念が素晴らしいだけに、その家族の中にも含めるべき人々を、ひとりロータリー関係者だけに限定してしまうことはいかかなものかと残念に思うものであります。

本来、相手がロータリー関係者であってもなくても、特に世の中の貧困の方々、苦悩の人達に対して人間愛としての暖かな優しい心を差しのべることが大切なことではないでしょうか。これがロータリーの基本精神だからであります。さもないと「ロータリー家族」の提案がロータリー内の「身びいき」とか「身内かばい」と誤解されてしまうかも知れませんし、そうであってはいけないものと存じます。

R Iのテーマにも私どもの尊敬するビチャイ・ラタクルさんが「慈愛の種子を播こう」、あるいはクリフォード・ダクターマンさんが「誠の幸福は人助けから」と、他人に奉仕することが自らの幸せである、とおっしゃっておられます。またわが国から初めてのR I会長になられた東ヶ崎潔さんはメキシコシティの国際大会で「慈善は自分の家庭から始まる」との言葉を冒頭に述べておられます。ですから「ロータリー家族」の精神はこの際ロータリー関係者に絞らず、一般社会にも大きく広げて考えていけないものかと考える次第であります。

### さらなる期待

さらに、私はこの「ロータリー家族」に対し、内容的に実はさらにもっと大きな夢を持ちたいと思うものであります。それは最も身近な「家庭」という目に見えないものを大事にする心をロータリアンが強く持つようにしたいということです。具体的に申し上げますと

1つはロータリーの奉仕は、従来から外に向かっての「四つの奉仕」が言われておりますが、四つの奉仕の前にまずはロータリアン自身の内なる家庭に対する奉仕、つまり「家庭奉仕」からそもそもの行動をスタートさせることはできないものかと思うのであります。

2つ目は家庭崩壊など、いまの乱れた世相を改善するための家庭教育の充実にロータリアンが積極的に関わっていかないかということです。さらには子どもにとって家庭の延長でもある学校における教育、社会における教育の充実、強化にもロータリアンがもっと身近に積極的に協力していかないかということを考えるものであります。

3つ目はさらにロータリアンたるもの、まずクラブにおいても職場においても、また国内外いづこにおいても、つまりいつどこにいても我々は自らの人間修養、資質向上に努め、家庭の内外を問わずロータリアンとして世の中の模範的な人間でありたいと願うものであります。

**家族に“家庭”の理念を加えたい**

こうした私の考えや提案の基本は「ロータリー家族」と全く同じところにあるものと信じておりますが、ただ外観的には「ロータリー家族」の定義とは、その枠組みを相当にはみ出したものと受けとめられてしまうかもしれません。そこで、私の提案はいまの「ロータリー家族」の概念を広義に受けとめ、出来れば「家庭」という考えを積極的に加味して理解していただけないものかと考えるのであります。

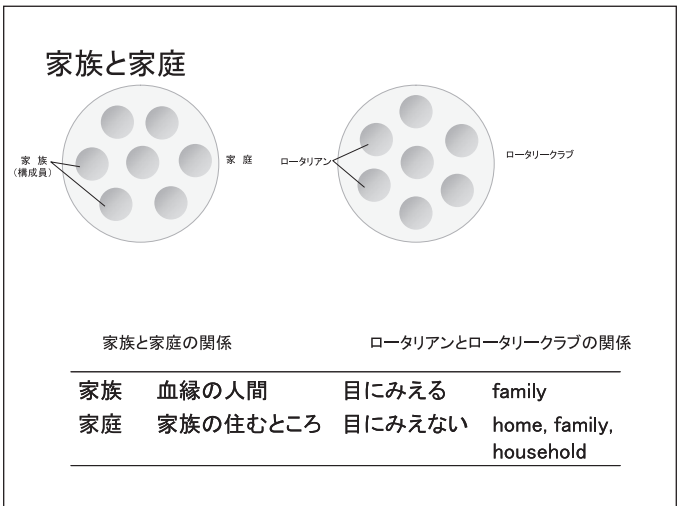
つまりいまの「ロータリー家族」の考えのうえに「家庭奉仕」への努力を含め、そこで培った精神をもって家庭教育、学校教育、社会教育にも奉仕の手を広げていくことであります。さらに出来ればその奉仕の行動の上に自らの人間修養、資質向上を心掛け模範的な家庭人、あるいは模範的な社会人になることを目標に努力していこうと願うものであります。

**家庭と家族**

先ほど来、私は「家族」と「家庭」という言葉を何度も使いました。「家族」と「家庭」を同じものとする考えは私はとりません。「家族」は辞書を調べるまでもなく血縁の人間そのものによって構成されます。「家庭」というのは家族の住む大きなところです。「家族」は目に見えますが、「家庭」は目に見えません。英語では家族は family ですが、家庭は主として home です。しかし home は家族 family も含みますし、時には household という抽象的な意味合いも含めております。

「家族」と「家庭」の関係はロータリーで言えば、「ロータリアン」と「ロータリークラブ」の関係に似ているかも知れません。一人一人のロータリアンは見えますが、ロータリークラブは見えません。いづれにしても目に見える一人ひとりのロータリアンは大切な存在で

ありますが、さらに目に見えないクラブを大事にする気持ちもまた非常に大事なことと思います。いづれにしても「家族」のことでなく、目に見えない「家庭」というものにも目を向けていくことが肝要であると考えられるわけでありませう。



**2510地区における“家庭奉仕委員会”**

私ども北海道の2510地区では、私が「ロータリー家族」の提唱される1年前の2002-03年のガバナーであったときに「家庭奉仕委員会」を発足させました。私がガバナーエレクトのとき、ガバナーエレクト研修セミナーGETSにおきましてRI理事の板橋敏雄さんにお伺いしたことがあります。「家庭奉仕委員会を作りたいんですけども」とお伺いしましたところ、「それはよろしいでしょう。どの委員会の系列に加えますか」ということでしたので私は「社会奉仕の系列に加えたい」とお答え致しました。「そうですね。それは立派な社会奉仕です」ということでございました。

いづれにしても家庭奉仕委員会発足の理念は「ロータリーは家庭から」(Rotary begins at home)の考えを尊重したいというところから始まったものであります。この思いは私ども2510地区の会員に徐々に浸透しつつあることを大変喜ばしく思っている次第であります。

具体的に何をしてきたかということではありますが、まずは「家庭奉仕」とは何ぞやということの議論を重ねることから始めました。

さらにいろいろの試行錯誤の繰り返したなかで、例えば Intercity Meeting (IM) では「慈愛の種を家庭から」のタイトルでシンポジウムを行いました。このときは一部市民を含め500名ほどが集まり、家庭についての大変活発な意見交換を持つことも出来ました。また、ワークショップ、市民集会のほか、各クラブの夜間例会として、あるいは他団体主催事業として地区内各クラブで家庭奉仕についてそれぞれ熱心な話し合いを持ちました。家庭に関する勉強会、ビデオ、テープの紹介なども行いました。いささかなりとも「家庭」というものを考える動機になったかと考えているところがあります。



A4版 16頁

家庭奉仕とは何ぞや?

A4版 8頁

(和田三三家庭奉仕委員長)

### 家庭から学校へ

先ほど家庭奉仕の理念のところでも申し上げましたが、家庭奉仕の延長として学校教育にも関わるようになりました。子ども達にとって「学校は家庭の延長」なのであります。

札幌市内で107年の歴史を持つ北九条小学校において子ども達に対するロータリアンの「出前授業」を2002年9月から始めて既にまる4年が経ちました。時には小中学生による職場訪問、職場体験も行っております。

以上のような奉仕活動は現在、市内の数校の学校で行われていましたが更に地区レベルでの大きな展開を願って、地区内の協力していただけるロータリアンの「協力会員名簿」を作っております。これには1頁に5人のロータリアンがどんなことお手伝いできるかの内容も詳しく紹介しております。こうして私どもの地区におけるロータリー活動が家庭から学校、コミュニティへと着実に広がっていることを強く感ずるのであります。



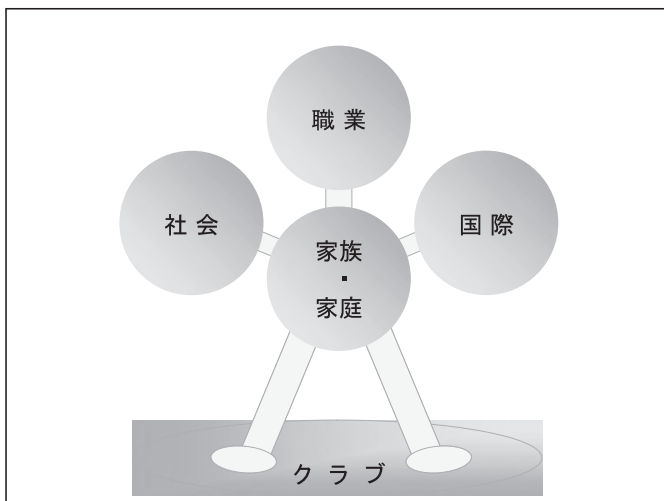
家庭奉仕の延長として学校教育にも関わることとなった(子ども奉仕)。子ども達にとって学校は家庭の延長である

「ロータリークラブ協力会員名簿」は「小中学校に出向いて授業する」、「小中学生を職場に招いて職業体験をしてもらう」など学校教育の充実・強化のために作られた(米山道子子ども奉仕委員長)

A4版 118頁

### まとめ

最後にまとめとしてもう一度。ロータリアンは家族を大事にすることは当然ですが、家族だけでなくさらに「家庭」という目に見えない大きなものにも注目し、そこに含まれる、あるいはそこから派生する諸々の大事なことを学び、そして行動していくことがこれからのロータリーの新たな使命であってほしいと願い、今日の紹介をさせていただいた次第でございます。





2005-2006年度バスターガバナー

**塚原 房樹**  
(札幌東 RC)

## ロータリー理解推進月間に今思うこと

ロータリー理解推進月間は会員にロータリーについての知識と理解をいっそう深めてもらうための月間です。漠然とロータリーについての知識といってもロータリーの世界の膨大な情報の中から、一体何を理解したらいいのでしょうか。大事なことはロータリー運動の本当の目的を知ることです。シカゴで芽生えたロータリーの1本の苗木は100年の間に成長を続け大きな森となりました。それと同時に奉仕プログラムの枝葉も増え続け複雑になり「人を作る」というロータリー運動の目的そのものが見えにくくなってしまいました。次にロータリーの職業奉仕は今でも通用する

のかという疑問の声が出てまいりました。そして今最もホットな話題はクラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の是非論です。ロータリー100年目を終えた歴史的節目の今、これら3つの問題について考えてみたいと思います。

第一にロータリーの奉仕プログラムが複雑多岐になりすぎたため「木を見て森を見ず」の喩えのとおり、個々のプログラムが独り歩きを始め、「人を作る」というロータリー本来の目的が薄れ奉仕それ自体が目的となりNPO化したことです。ポール・ハリスの70年前に出版された自伝の中に6人の盲人が象を見ようとした次のような喩えがあります。

『第一の盲人は象の大きな硬い胴を突いて見て、象とは壁のようなものと怒鳴った。第二の盲人は象牙に触り象は槍のようなものと叫んだ。第三は鼻を撫でてみて象は蛇のようなものであると断言した。第四は太い足の1本を撫でてみて象は立木のようなものと断言した。第五はたまたま耳に触れ象というこの珍しい生き物は内輪のようなものと主張した。第六番目は確信を持って象は綱のようなものであると言い切った。彼は象の尾をつかんでいた』『各人は少しずつ正しいところはあつた。しかし全体的に言えばみな間違っている。ロータリアンの中にはこの喩えの盲人に似ているものがある。ロータリーの特定のプログラム、特定の行動を捉えて直ちに本質的なもののように思い、あえてこれがロータリーであると声明する。このようにして各々ロータリーの本質的な点を見出したと称し、ある行動のみを重視し深い関心を持つというようなことは、ロータリーの全体を知る資料とはならない』すでに70年前にロータリーが関与していた社会奉仕の種類は70を超えていて、会員個人を訓練するためのロータリーの奉仕が自らの奉仕の論理で独り歩きを始め慈善団体まがいの行動も多く、この喩えはこれに対するポールの杞憂と警鐘でした。現在ロータリーの奉仕プログラムはさらに多岐になりました。今こそロータリーのバイブルであるセントルイス宣言（決議23-34）を良くかみしめましょう。そこにはこう書かれています。『ロータリークラブの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練をするために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきである』結局行き着くところは人間形成で、奉仕活動は自分を磨くための手段なのです。

第二にロータリーの金看板である職業奉仕が久しく色褪せていましたが、特に最近「死せる職業奉仕」という声が聞こえてまいります。10月号の『友誌』に佐藤千壽PG（東京東）が寄稿された『道徳と資本』の中にあるように、昨今の経済界は市場原理主義的な投機ファンドをバックにしたIT企業などによる株の買占め騒動に揺れています。投機ファンドの行動原理は、要するに安価で買い占めた会社株を高く売り抜けるというだけのことです。

短期的な利益を狙って会社資産を食い荒らし、ひいては日本経済の長期的な基盤全体を荒廃させます。そこには「4つのテスト」などありません。もともとロータリーの職業奉仕とはカルバニズムの職業天職論（職業は神から与えられたものであるから神の御心を以って職業を営め）のことです。初期のロータリアンは天職人たらんと欲しました。しかし今、天職人と



いう意識は薄れました。会社は株主のもの、会社の資産は株主のものだからいかに経営者の意図が立派であろうと株主の同意なしに、利益獲得以外の目的に使うことは許されません。こういう市場体制にロータリーはどう対処したら良いのでしょうか。利益追求が悪いのではない、安易な利益追求が問題なのです。経済には職業倫理が必要です。自由主義経済学の創始者でありロータリーが誕生した20世紀初頭に活躍したケインズの師であったマーシャルは、自由主義経済を成り立たせるには「経済騎士道」が不可欠であるといいました。適度な利益への敬意と安易な金儲けに対する軽蔑は「経済騎士道」の重要な構成要素であり、安易な金儲けがいかに怖いかはバブル経済の経験を振り返ってみればすぐに判るでしょう。安易な金儲けは会社の内部をも堕落させてしまいます。真剣に仕事に取り組もうとする愚直さが失われてしまうほど会社にとって怖いことはありません。

マックス・ウェーバーもいうように厳しい自制心が無いと近代資本主義は成り立ちません。ロータリーの職業奉仕もこれらと同根なのです。経営者を支えるため、これ以上市場原理主義者につけ込まれないように法的整備は急務ですが、ロータリアンもまた株式市場が日常生活に密着している現代社会では市民との対話も重要です。ロータリーの職業奉仕を判りやすく広報することはロータリアンの義務でもあります。職業奉仕は死んではいません。資本主義の続く限り普遍の真理であります。市場原理主義の横行する今こそ、われわれはロータリーの職業奉仕を実践して行かなければなりません。

第三にCLPについてですが、昨年11月ボイドRI会長を迎えて岡山で開催されたロータリー研究会では、午前の全体会議の冒頭、南園直前RI理事はCLPについてはあくまでクラブが自主的に熟慮の上採用するようにといわれました。また午後のCLPの分科会部門では「CLPはクラブ再生の救世主となりうるか、はたまたロータリー運動を危うくさせるプランか」を巡りカンカンガクガクの議論となりました。そもそもロータリー運動の目的はロータリアンひとりひとりがロータリーの綱領を推進することです。綱領を推進するとは4大奉仕部門の実践にほかなりません。したがって世界中のロータリークラブには1922年以降必ず常任委員会として4大奉仕委員会が設置されています。CLPは4大奉仕委員会を外して広報、会員増強、財団などが常任委員会となります。エバンストンの職員たちの発想から生まれたこのCLPについて元RI会長のラタクル氏は、綱領を希薄にするこのプランは慎重に検討して欲しいといわれました。慎重な検討を要するということが問題があるということです。すでにCLPを採用したクラブからは「失敗を恐れず試行錯誤をはばからず」4、5年かけて長期的に取り組みたいという報告がありました。採用すればすぐに効果的なクラブになるという起死回生の妙薬ではないようです。ただCLP採用を巡ってクラブの全員が、自分たちのクラブの現状について真剣に時間をかけて議論を重ねるという「過程」に大きな意味があるようです。CLPは少人数のクラブを活性化するために提唱されていますが、少人数のクラブこそ4大奉仕委員会は必要です。

生き残りをかけたCLPといわれていますが、綱領の推進というロータリーの根本使命をないがしろにして生き残りを図っても果たして何の意味があるのでしょうか。

## 第3グループ IM開催される

第3グループガバナー補佐幹事 **今井 敏明** (栗山 RC)



平成18年11月18日(土)、栗山ロータリークラブをホストクラブに、栗山RC 榎澤忠彦実行委員長のもと栗山カルチャーセンター Eki、多目的ホールで、丸山淳士ガバナー、酒井正人ガバナーエレクトをお迎えして美唄RC、当別RC、岩見沢RC、岩見沢東RC、栗沢RC、江別RC、江別西RC、栗山RC、から192名の会員の出席を得て盛大に開催されました。栗山RC 丸山紘司 IM実行委員会幹事の総司会で廣岡秀博ガバナー補佐の点鐘で始まり、IM実行委員会総務委員長松原正和から開会の言葉、IM実行委員長榎澤忠彦より歓迎の挨拶、廣岡秀博ガバナー補佐挨拶がありました。公務多忙の中出席いただきました栗山町



助役 岩田晴美様より挨拶を頂き、つづいて丸山ガバナーのユーモアたっぷりの挨拶がありました。

引き続き基調講演を、栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会事務局長、高橋慎様より「栗山町ハサンベツ20年計画」という演題で講話を頂きました。その後、参加8クラブの代表者により「我がクラブの活動・重点目標」の発表があり、懇親会は、栗山RCの例会場、ホテル・パラダイスヒルズに移し、栗山RC小島茂幹事の司会のもと、楽しい一時を過ごし、親睦を深めました。最後に全員で「手に手つないで」を合唱して閉会となりました。

廣岡秀博ガバナー補佐

引き続き基調講演を、栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会事務局長、高橋慎様より「栗山町ハサンベツ20年計画」という演題で講話を頂きました。その後、参加8クラブの代表者により「我がクラブの活動・重点目標」の発表があり、懇親会は、栗山RCの例会場、ホテル・パラダイスヒルズに移し、栗山RC小島茂幹事の司会のもと、楽しい一時を過ごし、親睦を深めました。最後に全員で「手に手つないで」を合唱して閉会となりました。



丸山淳士ガバナー挨拶



酒井正人ガバナーエレクト



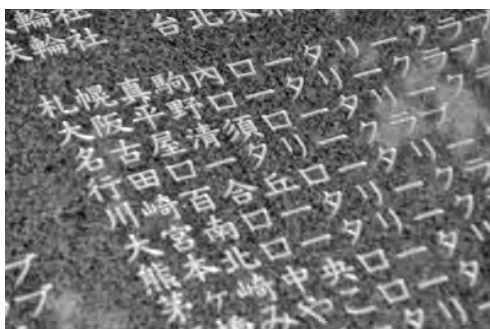
台北中正記念公園シダ類植物育成園区落成式

札幌真駒内 RC

国際奉仕委員長 齋藤 康嗣

札幌真駒内ロータリークラブは平成18年12月1日から4日、台湾台北大同ロータリークラブのシダ類植樹の協同支援の依頼により台湾を訪問しました。12月3日、台北市中正記念堂公園内に植樹したクラブの記念碑の式典と碑の除幕式があり、世界102クラブ、日本の32クラブを代表し、札幌真駒内ロータリークラブの南部会長が荣誉ある挨拶をいたしました。

式典及び除幕式とも盛大に行われ、熱烈な歓待と親密な友好交流が行われたことをご報告いたします。



## 新入会員のご紹介 (敬称略)



札幌清田RC **近間 俊一**

平成18年12月5日入会

## ロータリー財団寄付

### ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

#### マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌 RC	松本 脩三	会員 (2回)	11月24日
札幌東 RC	平 良一	会員 (1回)	11月24日
札幌東 RC	小野 道男	会員 (3回)	11月24日
室蘭 RC	内山 博	会員 (1回)	11月24日
室蘭北 RC	村井 玄乙	会員 (1回)	11月 8日
苫小牧東 RC	蝦名 久志	会員 (1回)	10月23日
苫小牧東 RC	小林 忠男	会員 (1回)	10月23日
苫小牧東 RC	松下 昌平	会員 (2回)	10月23日
苫小牧東 RC	水元 修治	会員 (2回)	10月23日

#### ポール・ハリス・フェロー

札幌真駒内 RC	中原 孝	会員	11月10日
森 RC	出町 英二	会員	11月 3日
苫小牧東 RC	古宇田 涉	会員	10月23日
苫小牧東 RC	斉藤 英明	会員	10月23日
苫小牧東 RC	松原 實	会員	10月23日

## 米山記念奨学会寄付

### 米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

#### 米山功労者

深川 RC	永井 久之	会員 (4回)	11月 1日
赤平 RC	赤川 清介	会員 (3回)	11月30日
赤平 RC	渡部 芳己	会員 (1回)	11月30日
岩見沢 RC	石井 和行	会員 (1回)	11月28日
岩見沢 RC	武蔵 輝彦	会員 (2回)	11月28日
岩見沢 RC	山口 順市	会員 (1回)	11月28日
岩見沢 RC	山本 辰勇	会員 (2回)	11月28日
札幌あけぼの RC	高坂 輝雄	会員 (4回)	11月24日
札幌北 RC	相沢 美束	会員 (7回)	11月21日
札幌西北 RC	三上 直彦	会員 (8回)	11月 2日
札幌西北 RC	谷口 二郎	会員 (30回)	11月 2日
札幌東 RC	藤田 八束	会員 (4回)	11月 1日
札幌東 RC	笠原 昇一	会員 (4回)	11月 1日
札幌東 RC	神谷 健蔵	会員 (2回)	11月22日

札幌東 RC	松本 恒一	会員 (1回)	11月 1日
札幌東 RC	奥村 義夫	会員 (5回)	11月 1日
札幌幌南 RC	有田 均	会員 (3回)	11月21日
札幌幌南 RC	長谷川洋一	会員 (2回)	11月21日
札幌幌南 RC	深貝 亨	会員 (1回)	11月21日
札幌幌南 RC	土谷 享	会員 (2回)	11月21日
札幌幌南 RC	和田 壬三	会員 (2回)	11月21日

#### 米山功労クラブ

赤平 RC	3回	11月30日
岩見沢 RC	25回	11月28日
札幌北 RC	23回	11月21日
札幌東 RC	33回	11月22日
札幌幌南 RC	16回	11月21日
浦河 RC	4回	11月 1日

2007年1月 国際ロータリー為替レート 米貨1ドル当たり=118円

ガバナー公式訪問

千歳RC公式訪問 (9月14日)



苫小牧東RC公式訪問 (9月14日)



函館東RC公式訪問 (9月19日)



函館セントラルRC公式訪問 (9月19日)



長万部RC公式訪問 (9月20日)







森 R C 公式訪問 (9月20日)



函館 R C 公式訪問 (9月21日)



長沼 R C 公式訪問 (9月25日)



札幌清田 R C 公式訪問 (9月26日)



札幌セントラル R C 公式訪問 (9月26日)



**上磯ロータリークラブの名称変更について**

12月6日付にて国際ロータリーの承認により、上磯RCが **北斗ロータリークラブ** に名称が変更となりましたのでご連絡致します。

**【例会曜日・例会時間・例会場の変更について】****事務所・例会場の変更について**

恵庭RCの事務所・例会場が下記の住所に変更となりましたのでお知らせします。

事務所：〒061-1441 恵庭市住吉町2丁目2-1 第一製菓プラザ吉番館2階  
電話 0123-32-2388 FAX 0123-32-6066

例会場：〒061-1441 恵庭市住吉町2丁目2-1 第一製菓プラザ吉番館内

**クラブ幹事の交代について**

浦河RCの高橋清孝幹事がクラブを退会されたため、高杉保廣会員（副幹事兼任）に交代となりました。

なお、クラブへのご連絡等はFAX 0146-22-0543（大針会長宛）までお願い致します。

江別西RC：1月9日（火）の例会は下記に変更します。

1月13日（土）新年夜間例会 18:00～ 場所：ビストロ龍の巣

小樽RC：1月16日（火）夜間例会 17:15登録開始 場所：小樽グランドホテル

室蘭北RC：1月9日（火）夜間例会「35周年記念式典・祝賀会を新年交礼と併せて」18:30～

場所：ホテルサンルート室蘭

1月16日（火）休会（1月20日（土）3RC合同例会の振替）

小樽銭函RC：1月4日（木）休会（定款第5条第1節により）

白老RC：1月2日（火）休会（定款第5条第1節により）

1月30日（火）移動夜間例会「新年家族例会」

18:00～ 場所：しらおい経済センター（白老町大町）

室蘭東RC：1月3日（水）休会

1月20日（土）室蘭3RC合同「イキイキわくわく音楽会」 場所：室蘭市民会館

1月24日（水）休会（1月20日（土）3RC合同例会の振替）

1月31日（水）創立記念家族同伴夜間例会 18:30～ 場所：蓬峽殿

**文庫通信 (231号)**

このたびは昨年度の会計報告をさせていただきます。今後ともロータリー文庫をご活用くださるようお願い致します。

**【ロータリー文庫 2005～2006年度会計報告】**

貸借対照表			
資 産		負 債	
現 金	23,788	雇用保険料預り金	10,700
普通預金	2,773,411	社会保険料預り金	175,690
定期預金	10,000,000	未 払 金	1,348,095
		負債合計	1,534,485
		正味財産	
現預金合計	12,797,199	次期繰越剰余金	11,262,714
合計	12,797,199	合計	12,797,199

収支計算書			
収 入		支 出	
会費収入	30,144,150	委員会費	2,290,407
雑収入	1,426,295	業務費	2,556,494
		貸借管理費	10,209,722
		人件費	16,397,433
		予備費	3,771,810
当期合計	31,570,445	当期合計	35,225,866
前期繰越収支差額	14,918,135	当期収支差額	△3,655,421
収入合計	46,488,580	次期繰越収支差額	11,262,714

**ロータリー文庫**

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F

TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

# 出席報告

## 出席率・会員数

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			06.7.1	06.11.30	増減	内女性	
1	深 川	4	37	39	2	2	85.42
	羽 幌	4	44	50	6	1	90.00
	妹 背 牛	4	10	10	0	0	87.50
	小 平	3	15	15	0	0	80.00
	留 萌	4	49	51	2	0	79.07
	小 計		155	165	10	3	84.40
2	赤 平	4	33	33	0	1	80.47
	芦 別	4	46	46	0	0	83.72
	砂 川	5	53	53	0	0	97.25
	滝 川	4	100	99	-1	0	75.00
	小 計		232	231	-1	1	84.11
3	美 唄	4	41	41	0	0	92.86
	江 別	4	37	37	0	1	91.66
	江 別 西	5	33	34	1	3	90.29
	岩 見 沢	3	90	93	3	0	91.01
	岩 見 沢 東	4	35	37	2	4	91.18
	栗 沢	5	22	22	0	1	90.81
	栗 山	4	30	33	3	2	96.67
	当 別	4	37	37	0	1	75.68
	小 計		325	334	9	12	90.02
4	札 幌	4	124	133	9	0	98.11
	札幌あけぼの	3	17	18	1	1	100.00
	札幌はまなす	4	25	26	1	4	82.00
	札 幌 北	3	36	37	1	6	91.00
	札幌モーニング	4	53	52	-1	0	70.41
	札 幌 西	4	73	76	3	4	91.19
	札幌西北	4	43	46	3	4	96.40
	札幌手稲	4	39	39	0	1	98.08
	小 計		410	427	17	20	90.90
5	札 幌 東	4	113	112	-1	0	97.84
	札幌清田	4	25	25	0	6	100.00
	札幌幌南	2	66	68	2	0	100.00
	札幌真駒内	4	42	42	0	3	96.71
	札 幌 南	3	88	92	4	0	95.24
	札幌大通公園	3	14	15	1	5	75.55
	札幌セントラル	4	16	18	2	6	70.83
	新 札 幌	4	31	34	3	2	94.33
	小 計		395	406	11	22	91.31
6	岩 内	3	28	28	0	0	74.36
	倶 知 安	5	48	48	0	3	78.60
	小 樽	4	71	71	0	1	86.15
	小 樽 南	3	77	77	0	0	86.76
	小樽銭函	4	24	24	0	3	79.00
	蘭 越	4	11	11	0	0	82.50
	余 市	5	41	42	1	4	91.10
	小 計		300	301	1	11	82.64

## 11月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,945人
当月末会員数(女性)	3,024人(100人)
増加会員数	79人
当月平均出席率	85.23%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			06.7.1	06.11.30	増減	内女性	
7	千 歳	4	68	69	1	3	84.10
	千歳セントラル	4	27	29	2	0	81.90
	恵 庭	4	45	43	-2	0	83.33
	北 広 島	3	20	20	0	2	86.67
	長 沼	4	18	18	0	3	76.33
	由 仁	4	13	13	0	0	88.46
	小 計		191	192	1	8	83.47
8	え り も	4	22	22	0	0	88.64
	三 石	4	17	17	0	1	86.70
	様 似	4	18	18	0	1	78.47
	静 内	5	76	79	3	0	92.80
	浦 河	4	34	34	0	1	84.29
	小 計		167	170	3	3	86.18
9	伊 達	3	56	55	-1	0	76.36
	室 蘭	4	45	49	4	0	97.40
	室 蘭 東	4	45	47	2	0	93.50
	室 蘭 北	4	38	38	0	2	100.00
	登 別	5	32	32	0	2	84.38
	洞 爺 湖	3	8	8	0	0	88.40
	小 計		224	229	5	4	90.01
10	函 館	4	89	92	3	0	72.79
	函館亀田	4	44	45	1	2	71.11
	森	4	39	40	1	0	80.00
	七 飯	4	16	16	0	0	83.00
	長 万 部	4	6	6	0	0	75.00
	函館セントラル	4	40	41	1	2	62.20
小 計		234	240	6	4	74.02	
11	江 差	4	19	20	1	0	67.50
	函館五稜郭	3	64	64	0	0	99.42
	函 館 東	4	41	43	2	4	85.48
	函 館 北	5	29	32	3	0	87.61
	上 磯	4	17	19	2	2	73.70
	松 前	4	7	7	0	0	60.00
	小 計		177	185	8	6	78.95
12	白 老	4	19	24	5	0	77.20
	苫 小 牧	3	50	53	3	1	80.00
	苫小牧東	4	30	30	0	3	74.16
	苫小牧北	4	36	37	1	2	86.43
	小 計		135	144	9	6	79.45
合 計		2,945	3,024	79	100	85.23	



2006-2007年度 下期地区カレンダー (予定表)

年	ロータリー月間強調事項	月	日(曜日)	地区の行事	日(曜日)	国内行事・国際行事	グループ内の行事 I M、クラブ周年行事
2	ロータリー理解推進月間	1	14(日) 20(土) 21(日) 27(土)	各クラブ半期報告、人頭分担金送金 青少年交換短期派遣生選考試験 2007学年度米山奨学生選考試験(札幌市) 第2回ガバナー指名委員会・酒井GE壮行会(札幌市) 次年度ガバナー補佐研修セミナー(札幌市) ガバナー補佐会議(札幌市)	9(火)	室蘭北RC35周年記念式典	
		0		08-09国際親善奨学生応募開始 サッポロ・インターナショナルナイト参加(青少年交換) 札幌スキー・マラソン(新世代他)	28(日)~2/3(土) 3(土) 10(土) 17(土) 24(土)	国際協議会(米国・サンディエゴ) 第9グループIM 第8グループIM 第10・11グループIM 第6グループIM	
7	識字率向上月間 世界ロータリーアクト週間 (3/13を含む1週間)	0	25(日)	地区チーム研修セミナー(札幌市) 2007年3月終了米山奨学生歓送会	10(土) 11(日)	ロータリーの友委員会(予定)	第2グループIM 長沼RC15周年記念式典
		3	17(土)~18(日)	07-08国際親善奨学生オリエンテーション 地区R財団セミナー、地区米山セミナー(予定) 会長エレクト研修セミナー(函館市)		ROTARY-NO-TOMO発行	岩内RC45周年記念式典
19	ロータリー雑誌月間	4	8(日)	地区協議会(函館市) 08-09国際親善奨学生応募締切り 青少年交換長期派遣生募集開始 財団学友帰国報告会 新規米山奨学生オリエンテーション・カウンセラー研修会	19(木) 21(土)~22(日) 22(日)~28(土) 27(金)	第3700地区(韓国)地区大会 規定審議会(米国・シカゴ)	札幌西北RC30周年記念式典 江別西RC15周年記念式典
		5		米山学友家族懇親会 08-09国際親善奨学生選考試験 ロータリーアクト地区年次大会 インターアクト地区年次大会 新旧ガバナー補佐会議 新旧地区委員長・ガバナー補佐合同会議 丸山年度地区要覧発行	19(土)	長沼町国際交流フェスティバル	
年	ロータリー国際大会 ロータリー親睦活動月間	6			2(土) 9(土) 17(日)~20(水)	全日本ロータリークラブ親睦合唱祭(札幌市) 国際大会(米国・ソルトレークシティ) 米山記念奨学会、理事会・評議員会	苫小牧RC50周年記念式典
		9					



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER  
2006-2007 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510